

教育学専攻（博士前期課程）

1. 教育研究上の目的

教育学専攻は、教育分野における専門的な調査研究能力と方法論を身につけさせるとともに、教育研究分野の諸問題に関して専門的な知見から思考・省察・判断・表現できる能力を高めることによって、教育の研究と実践の分野において自ら創造的な活動をしていく人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学専攻（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（教育学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 教育の専門家として保有すべき教育研究分野における専門的な知識と方法論を用いて、広い視野に立って現代の課題と向き合い追求することができる。

（思考・判断・表現）

2. 教育研究分野の諸問題に関して専門的な知見から思考することができる。
3. 理論と実践を往還させながら省察・判断し、研究の経過と成果を的確に表現できる。

（関心・意欲・態度）

4. 教育の研究と実践の分野において自ら創造的な活動をしていく意欲を持っている。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学専攻（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 教育目標を達成するため、教育学の基礎的な知見を学ぶ「教育基礎学コース」、教科教育を中心とした理論と実践を学ぶ「教育実践学コース」、教育の現代的課題を研究する「教育創造コース」の3つのコースを、指導教員の専門分野に基づき配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）
2. 各コースにおいて、概論的な内容を学ぶ「概説」、発展的な内容を学ぶ「事例研究」「特殊研究」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）
3. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「修士論文指導」

を必修科目として配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

4. フィールドスタディの能力を修得するため、「学校教育事例研究」を配置する。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)
5. 教育学・教育実践に関する研究能力を身につけるため、他大学院研究科との相互交流協定を通じて相互の履修及び単位の修得ができ、学外の研究機関の設置する課程・研修会等の履修により設定された単位の履修を認める。(知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度)

(教育方法)

1. 講義科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 文献講読、輪講、フィールドワーク、事例研究など多様な方法で学習・研究する。
4. 指導教授が、きめ細かな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 指導教授による演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、修士論文の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 教育学・教育実践に関する基礎的・基本的な知識を持ち、教育研究の活動を遂行できる。

(思考・判断・表現)

2. 教育学・教育実践に関する諸課題について思考し、多様な考え方からの確に方策を判断し、自らの考えを明確に表現できる。

(関心・意欲・態度)

3. 教育研究に意欲的に取り組み、他者と連帯しながら研究を遂行しようとする態度を有している。

以 上